

第23回全国銀行大会における総裁挨拶要旨

本日、第23回全国銀行大会が開催されるにあたり、所見を申し述べる機会を得ましたことは、私の深く喜びとするところであります。

1. 内外経済情勢と金融政策の基本方針

わが国経済は、昭和40年秋以降すでに3年半をこえる景気上昇過程をたどっております。昨年から今春にかけ、経済指標の一部には、景気の先行き鈍化を予想させるような動きも見受けられたのでありますが、これらの現象の多くはすでに薄らぎ、当面経済は引き続き高いテンポの拡大を続けるものとみられております。一方国際収支は、わが国商品の輸出競争力の増大と有利な国際環境にささえられて、昨年来大幅の黒字基調を持続しております。このような経済の高度成長と国際収支の大幅黒字の併存は、戦後のわが国経済がいまだ経験しなかった幸いな状態であると申すことができるのであります。

しかしながら、この間労働力需給の引き締まり、賃金の大幅上昇に加えて、消費者物価は根強い騰貴を示しており、これに伴い賃金コストの上昇を通じて企業収益を圧迫し、また国民生活を不安定ならしめるおそれがあることは、注意しなければならないと思うのであります。

また海外における輸出環境がわが国にとって有利な状態で推移するとともに、予想外に多額の外資の流入がみられたことなど、これまで国際収支

の改善に大きく寄与してきたこれらの諸要因が、今後も同様に持続するかどうかについても、十分考えなければならないと思います。さらに海外諸国には、各種の制限措置によってわが国の貿易あるいは金融が過保護の状態にあるという意見がありまして、この点についてはわれわれとしてすでに慎重に検討、対処しておりますが、なお考慮を続ける必要があると存じます。一方最近円の実力を過大に評価し、円の平価を切り上げるべきであるという一部の議論が伝えられますが、このような考え方については私は全く妥当でないと信ずるとともにこれはわが国がいかに世界から関心をもたれているかを示す証拠であると思います。

一昨年の英ポンド平価切下げを契機に国際通貨不安が高まり、海外金融情勢はしばしば激しい動揺を示しております。かかる情勢に対処し、基軸通貨国である米英両国をはじめ、西ドイツ、フランス、その他の諸国においては、国内経済の安定あるいは国際収支の均衡を図るため、非常な努力が払われております。しかしこれらの措置は、いまだ十分の効果をあげるに至っておらず、国際通貨問題の先行きは、予断を許さない状況にあります。これに伴って世界の主要国ならびにユーロ・ダラー市場の金利はかつてない高水準に達し、しかもこのような高金利は長期化する可能性が大きくなっていることが注目されるのでありま

す。

申すまでもなく、国際通貨問題を解決するためには、SDRの創出による国際流動性の補強も一つの有力な手段でありましょうし、主要国による国際協力も有益な方法でありましょうが、しかしなによりもまず、各国がインフレーションの抑制に毅然とした姿勢を確立し、国際収支規律を遵守することが必要であります。今後各国がこの方向に向かって一段の努力を尽くすことが期待されるのでありますが、これに伴う国際金融経済情勢の変化が今後世界貿易や国際的な資本移動にいかなる影響を及ぼすかについて、われわれは注視する必要がありますと存じます。

以上申し述べたような内外の経済情勢にかんがみ、今後多くの困難な課題の解決に努力しつつ、現在の繁栄をできるだけ長続きさせることが、金融政策を含む経済政策全般の基本的課題であると考えられるのでありまして、当面国際収支に若干ゆとりがあるとは申せ、金融政策の運営に際しては、これまでと同様、引き続き慎重な態度を続けることが肝要と存ずるのであります。

2. 金融政策運営上の諸問題

このような基本方針に沿って今後金融政策を運営する場合、金融の正常化を推進することが必要であり、とくに金利の弾力化を図ることが、当面の課題であると考えております。

一昨年初以降金融引締め政策の実施に際しましては、金利政策と並んで、これを補完する意味で、銀行に対する貸出増加額規制措置を併用し、所期の目的を達成いたしました。しかし今後経済の安定的発展を図っていくためには、平素から市

場原理を極力尊重し、金利機能を一段と活用して参ることが、肝要であると考えます。このような観点に立った場合、現在の公社債市場にみられるいくつかの問題点の是正につき、関係各方面が絶えず努力し市場の健全な発展を図るとともに、固定化の状態にある一部の貸出金利などについても、この際その弾力性を回復させるよう再検討を加えることが、必要であると存じます。

金利の弾力化の問題に関連して見のがしてはならないと思われる点は、海外金利が長期、短期ともに大幅に上昇したことにより、わが国の金利水準が国際的に割高という状況ではなくなったことであります。この結果、一方では従来国際比較という観点から金利の弾力化を制約していた要因がしだいに薄らいで参りましたが、他面、今後国内金利の変動が海外との資本の流出入に敏感な影響を及ぼすようになりますので、金融政策の運営に際して海外金利の動向にいっそう留意しなければならぬことは、申すまでもありません。

本行は昨年初金融引締め政策を緩和した後においても、資金ポジションを重視した指導を実施してきております。この措置は、銀行に対して資金の調達、運用の両面にわたってバランスのとれた行動をとるよう要請したものでありまして、いわば銀行経営の基本原則とも申すべきであります。最近の資金需給の動向や金利機能の現状にかんがみ、今後引き続きポジション重視の指導を堅持して参らねばならぬと存じます。幸い各位におかれては、私どもの意図するところを理解され、最近自主的にポジションを重視しようとする気運がしだいに高まりつつあることは、心強く感ずる

しだいでありまして、これが今後金融機関経営の基本として定着することが望ましいと存じます。

これまで経済政策の運営に際しては、国際収支にゆとりのあるかぎり経済成長テンポを高めた方がよいという要望もかなりあったのでありますが、さきほど申し述べたように、高度成長に伴い労働力需給の引き締め、消費者物価の上昇などの問題が生じていることを考えますと、今後も国際収支を従来どおり重視することはもちろんであります。さらにこれに加えて、適度の経済成長のもとで、消費者物価の上昇を極力抑制するなど国内諸情勢を十分配慮することが必要であると思います。この点に関連して申し述べたいのは貯蓄の問題であります。私どもはこれまで長年にわたり貯蓄の重要性にかんがみ、その推進運動を実施して参りましたが、貯蓄の正当な利益を守り、国民生活の安定を図るうえからも消費者物価の大幅な上昇は抑制されるべきであると考えます。もとより消費者物価の上昇を金融政策のみによって抑制しようとするのは、経済界に過度の摩擦をひきおこすおそれがありますので、必ずしも適当でないものであります。したがって、各界の協力を得て、もろもろの個別対策を推進するとともに、少なくとも総需要の面から消費者物価の上昇を促進することのないよう、金融政策の運営上配慮を加えることが必要であると存じます。

3. 銀行に対する要望

次にこの席上をかりまして、今後の経営のあり方について、一言申し述べたいと存じます。

わが国企業は近年かなり国際競争力をつけて参ったと思われていますが、今後の経済の国際化の進展

を考えますと、個々の企業の実力、たとえばその財務構成や販売力などの点について対外競争力をなお一段と強化する必要があると思います。また国内面においても、経済、社会構造の急速な変化に伴って、産業界は変動期に遭遇しており、地域、業種ないしは企業相互間にみられる格差の拡大傾向に対処し、きびしい合理化努力を迫られております。このような環境の変化に対する企業の適応努力を实らせ、経済の安定的発展を図るうえにおいて銀行に負わされた責務は、まことに重大であります。前回の景気上昇期に比べ企業の自己資金依存度が若干上昇し、企業規模も漸次拡大しつつあることなどから、銀行と企業との関係にはかなりの変化が生じているとの見方もあるようではありますが、しかし銀行の融資態度が依然企業の経営態度にきわめて大きな影響力を有していることは、明らかでありまして、各位におかれてはこの点に十分留意していただきたいのであります。

次に銀行は業容拡大にのみとらわれることなく、経営内容の質的向上に努めていただきたいのであります。すなわち、資金ポジション重視の姿勢を堅持し、節度ある融資態度を持続するほか、地道な経営の合理化、効率化を通じてコストの軽減に一段と努力することが、肝要であると存じます。

また、銀行においてはこのところ、業務の機械化、新種業務の開発、業務提携などの動きが活発化しているように見受けられます。これらは大きな方向としては時宜に適したものと考えられるのでありますが、このような新たな企画に際しては、長期的視野と冷静な評価の上に立って自主的

に実行されることが望ましいのであります。

む す び

以上、私は内外経済情勢に対する所見、今後における金融政策運営の基本方針、ならびに金融界のあり方について申し述べたつもりであります。現在わが国経済は未曾有の長期にわたる好況が続けておりますが、いたずらに繁栄をおう歌することなく、このような時期にこそ、経済の体質改善を図るべきであると信じます。またわが国をめぐる国際環境にもきびしいものがあり、とくに貿易や資本取引の自由化促進に関しては、今や自主的に前向きの姿勢で取り組まねばならない時期に際会

しております。さらに発展途上国に対し、われわれはその経済的向上のため、国力の許す限度において、これを支援することが必要でありましょう。このように考えますと、今日ほどわが国経済を安定成長の軌道に乗せることが重要な時はないのでありまして、金融界をはじめ経済各界のご協力のもとに、きびしい試練を乗り越え、経済の長期にわたる繁栄の基礎を固めて参りたいと、衷心からお願いいたしているしだいであります。これをもちまして私のご挨拶を終わります。

(昭和44年6月16日)